

すみよし



2017 被昇天号 第202号

聖句

「昼間は十二時間あるではないか。昼のうちに歩けば、
つまずくことはない。この世の光を見ているからだ。
しかし、夜歩けば、つまずく。その人のうちに光がない
からである。」

ヨハネ 11 章 9-10 節

日本聖書協会新共同訳

選：ヨゼフ T.I



[目次](#)

FEAST OF THE ASSUMPTION OF THE BLESSED VIRGIN MARY

Fr. Constancio Consulta

The Feast of the Assumption of the Blessed Virgin Mary, celebrated every year on August 15, commemorates the death of Mary and her bodily assumption into heaven, before her body could begin to decay. The Assumption was not always an official dogma of the Roman Catholic Church – not until Pope Pius XII ruled it so in 1950. Because it signifies the Blessed Virgin’s passing into eternal life, it is the most important of all Marian feasts and to many countries it is a Holy Day of Obligation. If it falls on a Monday or a Saturday, the obligation to attend Mass is abrogated.

Assumption Day is even a public holiday in several countries such as Austria, Belgium, Chile, Croatia, France, parts of Germany, Guatemala, Greece, Italy, Poland, Portugal, Slovenia, Spain and Switzerland.

Assumption Day commemorates the belief that when Mary, the mother of Jesus Christ, died, her body was not subjected to the usual process of physical decay but was “assumed” into heaven and reunited there with her soul. The assumption of Mary illustrates how important to God is the entire human person, body as well as soul. We may assume that Mary is so extraordinary, so we may wonder whether we ordinary people can really share in a privilege like her own. Mary is a sign of hope that we will share in the resurrection of Christ. To put it simply: of course Christ was raised from the dead; he is divine. But what about us? Mary, though sinless, is a human person; she is not divine. And yet God the Father was pleased to raise her from the dead. The truth, the Church assures us, contains the comforting promise that God will raise us too.

In the Assumption of his Mother, Our Lord has demonstrated his fidelity to his promise. Her privilege is “the highest fruit of the Redemption” and “our consoling assurance of the coming of our final hope – the glorification which is Christ’s.” (From the Enchiridion on Indulgences.) The Blessed Virgin Mary is the most perfect example of Christian perseverance, but she is also our advocate in heaven where she is crowned Queen of Heaven and Earth, which we will celebrate on August 22. May it be clear to us that the Assumption of the Blessed Virgin Mary reminds us of our own destiny. Happy Feast Day to all!



Copyright © 2017 Sumiyoshi Catholic Church, All rights reserved

聖母マリアの被昇天の祝日

コンスタンシオ・コンサルタ神父

毎年 8 月 15 日にお祝いされる聖母マリアの被昇天の祝日はマリア様の死とその肉体が減じる前に天国へ上げられたことを記念する祝日です。被昇天は教皇ピオ 12 世が 1950 年に定められるまで、ローマカトリック教会の公式の教義ではありませんでした。被昇天は聖母マリアが永遠の命を得られたことを示していることから、マリア様の祝日の中で最も重要であり、多くの国では教会の守るべき祝日となっています。この日が月曜日、もしくは土曜日になる場合はごミサに与る義務が免除されます。

被昇天の祝日はオーストリア、ベルギー、チリ、クロアチア、フランス、ドイツの一部地域、グアテマラ、ギリシャ、イタリア、ポーランド、ポルトガル、スロベニア、スペイン、スイスなどの国では国民の祝日にさえなっています。

被昇天の祝日はイエス・キリストの母であるマリア様が亡くなられた時にその体は通常の物理的な過程のように朽ち果てるのではなく、天に“上げられ”その霊魂と一体となったと考えられる信仰を祝うものです。聖母マリアの被昇天は神がすべての人間の魂だけではなく肉体にとってどれだけ大切であるのかを説明するものです。マリア様はあまりに特別であるがため、私たちのような普通の人々がマリア様が受けられたようなお恵みにあずかれるのかと疑問に思うかもしれません。マリア様はキリストの復活を分かち合うという希望の象徴です。簡単に言うなら、キリストはもちろん死から蘇られ、神です。では私たちはどうなのでしょう？無原罪ではありますがマリア様は人間であり、神ではありません。にもかかわらず、父である神はマリア様を喜んで死から蘇らせられたのです。教会が私たちに確信させる真実には神が私たちもまた蘇らせてくださることの慰めの約束が含まれているのです。

主の御母マリア様の被昇天において、主はその約束を実現されました。マリア様の被昇天は「もっとも崇高な罪の贖い」であり、「私たちの最終的な希望であるキリストという栄光」なのです。（贖罪規定書より）聖母マリアはキリスト者の堅忍の最も完璧な例ですが、マリア様は 8 月 22 日にお祝いされる天と地の元后であり私たちの擁護者でもあるのです。聖母の被昇天が私たち自身の歩む道を示してくださるように。皆さん、聖母の被昇天、おめでとうございます！





目 次



☆ 聖句	T. I	・・・	1
☆ 巻頭言	コンスルタ神父	・・・	2-3
☆ 目次		・・・	4
☆ 司祭ダイヤモンド金銀祝 おめでとうございます		・・・	5
☆ ようこそ!! エマニュエル神父様		・・・	6-7
☆ お元気で! ブラッドリー神父様		・・・	8-9
☆ オマリー神父様 ありがとうございます		・・・	10
☆ 初聖体		・・・	11
☆ サムエルナイト		・・・	12-13
☆ 神戸地区東ブロック合同堅信式		・・・	14-15
☆ 教会学校キャンプ		・・・	16-17
☆ 父との思い出	H.S	・・・	18-19
☆ キリスト者生活 喜びと賛美	ペンケレシ神父	・・・	20
☆ 「ユスト高山右近のいつくしみに倣う」ための祈り		・・・	21
☆ (教会日誌・信徒動静)		・・・	(22-23)
☆ 後記		・・・	24

題 字 J.Y

表紙絵 昭和 29 年被昇天号を再掲載

「すみよし電子版」はカトリック住吉教会 HP にフルカラーで掲載されています。



左記 QR コードからのアクセスもご利用下さい。

《 司祭 ダイヤモンド祝 金祝 銀祝 おめでとうございます 》

桜満開の 4 月 12 日（水）、大阪カテドラルにおいて前田大司教、池長大司教、司祭団の共同司式で聖香油ミサが捧げられ、その中で司祭叙階 60 年、50 年、25 年のお祝いがありました。

住吉在任期間を（ ）内に記しました。

- ・ダイヤモンド祝 吉村 延神父、高野 利雄神父、アントニオ・マルゴット神父
- ・金祝 直木 茂神父、^{あかさこ}赤峯 富男神父（1968.5～1969.9）
ホビノ・サン・ミゲル神父（1988.3～1989.4）
- ・銀祝 ダニエル・カンパタ神父、山口 武史神父、パウロ・セコ神父（2003.1～2007.4）
ブラッドリー・ロザイロ神父（2014.4～2017.4）

住吉でご指導下さった神父が 4 人もお祝いをお受けになったのは、大変嬉しいことです。皆様おめでとうございます！！ ますますのご活躍をお祈り申し上げます。

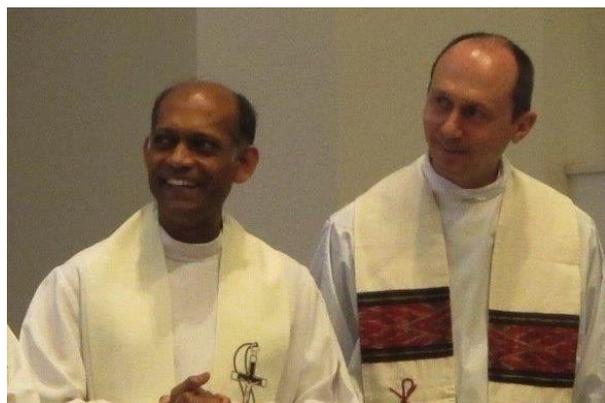
（なお、銀祝のダニエル・カンパタ神父はこのお祝いから 3 日後の復活祭前夜に帰天なさいました。）



感謝の挨拶をなさる赤峯神父



感謝の挨拶をなさるサン・ミゲル神父



笑顔のブラッドリー神父とパウロ神父



住吉の信徒とともに

《 ようこそ！エマニュエル神父様 》

4 月、エマニュエル・ポポン神父が神戸中央・住吉共同宣教司牧チーム担当司祭になられ、お住まいは住吉の司祭館に移されました。ご本人からのメッセージとプロフィールを含め伺ったお話をご紹介します。

メッセージ

信仰というものは、神の上に自分の人生を築くことだと言えると思う。すべての行動、すべての考えをそれによって見極め、進むこと。主イエスはそれを完璧に示された。私たちも神への信仰、信頼のうちにイエスと同じように、少しずつ、自分を神にゆだね、他人のために生きることになる。信仰の上で行ったことは神のあかしになる。神は愛だから、共同体として、個人として、その愛のあかしになることを求めよう。



生立ち

1979 年 9 月 20 日、フランス、リヨン近郊のドル生まれ。4 人兄弟の 3 番目。子供の頃、教会学校に通ってはいたがカトリックへの関心は薄かったと思う。15、6 歳で精神世界に興味を持ち、両親の蔵書を通じてキリスト教・仏教・瞑想など知識を得た。その中でイエスの存在を強く感じるようになった。高校 3 年で堅信の秘跡を受ける。堅信準備期間に見た修道僧の生活、特に彼らの祈りの深さには感銘を受け今も印象に残っている。高校卒業後は父が外科医だった影響で医学の勉強を始めたが、その中で「人生にはもっと大事なものがある」と思うようになり、「キリストとの出会い・神への信頼・福音の喜びを伝えよう」と 1999 年、20 歳の誕生日にリヨン神学校へ入学した。

叙階まで

神学校で哲学を 2 年間修め、2001 年 8 月初来日。東京のエマウスの家でボランティアを始める。日本には最初から親しみを覚え「ここが自分の働く場所だ」と思った。2003 年リヨンの神学校に戻ったが「司祭になる自分」に悩む時期があり、2006 年から 3 年間、神学校を離れて実社会での生活を経験。2009 年復学。2011 年 32 歳で司祭に叙階された。

その後

2012 年司祭として来日。1 年間名古屋で日本語を学び、2013 年茅ヶ崎教会、2014 年たかとり教会、2017 年 4 月神戸中央教会・住吉教会へ赴任。現在に至る。

Q&A

Q ご自身と共にある言葉は？

A 恐れるな、安心しなさい。
私はいけにえではなく、憐れみを望む。

Q 子供たちへ一言

A 教会に興味がない時も、いつも自分の良い心に従うこと。「あなたの心に呼びかけて下さる神の声」に耳を澄ませて下さい。

Q 若い世代へ一言

A 社会では毎日が戦いかもしれない。でも良い人になることを決して諦めないで！！
子供の時に持っていた「純な心」は大人になっても持ち続けることができる。どれほど忙しくても心を失うことなく、自らと周りを輝かせて欲しい。

Q シニア世代へ一言

A 皆さんの優しさ・穏やかさが教会を包んでくれている。その温かさは皆の支えとなっている。衰えを嘆くのではなく、全てを神に任せればいい。常に心を大きく広げ、希望を抱いて下さい。

Q 住吉教会全体へ

A 住吉教会はとても家庭的な教会だと思う。それは大きな強みであり、信仰のうちに互いに愛し愛される喜びがあるのは素晴らしい。信仰の喜びを先ず味わい、意識してみよう。そして、あらためて自分の信仰（の岩）がどこにあるか考えてみよう。ある人は聖書の言葉に、ある人は共同体に力を感じるだろう。認識をすることから自らの信仰は強められる。信仰の喜びを外部に伝える勇気や自信を見いだせればなお良いだろうが、一番大切なのは揺るぎのない信仰だ。

Q 住吉教会でエマニュエル神父は？

A 聖書の勉強…というよりは、信仰について話し、信仰について一緒に学んでいきたい。神と共に、神のうちに歩めるよう、信仰を養い合い、希望をみんなに与えたい。

希望について

フランス語には ①Espoir(エスポワール/一般的な希望)と ②Espérance(エスペランス/神から来る希望)の二つがあるそうです。インタビューの最後に次の言葉を頂きました。

**Seigneur, en toi, je mets mon espoir,
tu es mon espérance.**

主よ、私の希望をあなたに委ねます。

[目次](#)

《 ブラッドリー神父様、お元気で！ 》

4月16日、主のご復活主日のミサを最後に、3年間住吉教会で私たち信徒をご指導くださったブラッドリー神父様が転任されました。今後はオブレート会日本・韓国管区長として、また教区では梅田ブロックに協力司祭として着任されました。

住吉教会での神父様の想い等を修道会のお仕事などでご多忙にもかかわらず、以下のような文章にして送っていただきました。

思い出

子供の土曜学校（教会学校）

信者でない子供の月二回の集まりは神様やイエス様のことを子供に教えるチャンスです。住吉教会の信者（教会学校のリーダー）が時間をかけてやっているのを見ると、何か教会が子供に力を入れて宣教しているように見えます。私は教会学校のリーダーや子供と毎月ミサをし、子供と遠足に行ったことを懐かしく思い出します。

感じたこと

教会は信者のもの

3年間司祭が定住しないことになった時に、信徒の方向人かが責任をもって教会の戸締まりや事務的なことなどをしてくださっているのを見て、信徒が積極的（アクティブ）に動いてくださっていることを感じました。司祭が代わっても教会が信者の皆さんに見守られていくものだと思います。

家族的な雰囲気

住吉教会でのミサですが、私は祭壇から見て何か家族的な雰囲気があることを感じました。祭壇が会衆（共同体）に近いこと、また教会の形がその雰囲気を感ぜさせてくれているのかもしれない。

今後の課題

- 若者の養成や青少年の信仰教育
- 教会に初めて来られた方や外国人信徒に対する配慮
- 病者だけでなく高齢者や一人暮らしの方の訪問

こういったことが今後の課題であるのではと私には感じられました。

住吉教会での司牧は短い期間でしたが色々お世話になり本当にありがとうございました。

みなさまに心よりお礼を申し上げます。私の足りないところもあったと思いますがそれを赦していただければと思います。またいつかみなさまにお目にかかれるのを楽しみにしています。



ブラッドリー神父様、ありがとうございました。
これからの益々のご活躍を一同お祈り申し上げます。
またお目にかかれる日を楽しみにしつつ…



[目次](#)

《オマリー神父様 ありがとうございます》

編集部

神父様は今年の復活祭の少し前から体調をお崩しになり、海星病院に入院なさって、「早く元気になって住吉のみんなに会いたいよ」とおっしゃっていましたが、ご高齢のこともあり東京都練馬区上石神井のイエズス会ロヨラ修道院へお移りになりました。

神父様は 1931 年アメリカ・シカゴでお生まれになりました。
長じてイエズス会に入会なさり 1957 年来日。1963 年叙階。
1986 年六甲教会に赴任なさってから 30 年余り主に神戸地区で(六甲・尼崎・神戸中央・住吉)司牧をなさり、神戸の地をととても愛されていたのでお別れは残念でしたが、今まで導いてくださったことを感謝申し上げます。

神父様はミサのはじめに大きなお声で「おはようございます、今日も感謝してミサに与りましょう」とおはじめになり、力強いお話を伺ったミサのあとはミサゴで歓談なさり明るい空気でまわりを包んでくださっていました。

夏の恒例のバーベキューパーティにはよく出席くださり楽しんでくださいました。

「すみよし」号を繰り返すとバーベキュー大会の写真の中に 2013 年はちょうど神父様のお誕生日だったので可愛いケーキでお祝いした様子等々。

また 2013 年は 4 月に住吉でお祝いをした神父様の金祝の記事もあり、私達にたくさんの思い出を残してくださいました。

これからも東京で私たちのためにお祈りくださることでしょう。私達もお祈りいたしましょう。

ありがとうございます。



住吉教会は大阪大司教区神戸地区東ブロックに所属し、中央教会と共同宣教司牧チームです。現在はエマニュエル・ポポン神父とコンスルタ神父が担当で、協力司祭として傘木神父、5月までオマリー神父もご指導くださっていました。

[目次](#)



《 初聖体 》

4月16日、復活の主日のミサの中で1人のお子さんが初聖体を受けました。



初聖体おめでとうございます。

マリア・ローザ

R.M ちゃん

はつせいたいをうけて

リーダーにたくさんおべんきょうをしていただき、かみさまとたくさんおはなしをしようと思いました。ブレードリーしんぷさから始めてごせたいをいただいたとき、なんかかやさしりになれそうだな、と思いました。もっとたくさんの人となかよしになりたいです。

マリア・ローザ R.M



[目次](#)

《 サムエルナイト 》

毎年恒例、中央教会との合同サムエルナイト。今回は「ロザリオ」をテーマに4月29、30日の土日に住吉教会で行われました。紙芝居でロザリオについて学んだ後、それぞれのオリジナルロザリオ作りに一生懸命な様子でした。朝のラジオ体操で始まった2日目、自分の役割を全うしながらミサに与りました。外で元気よく遊んだり、朝食の買出しに行ったり、銭湯に行ったり、内容の濃い、充実した2日間となったようです。おいしい食事を用意してくださったりして支えてくださったお母様方やリーダーたちに感謝！



紙芝居でロザリオのお勉強



エマニュエル神父様も初参加



みんな真剣です！



色とりどりのロザリオの完成



朝食のお買い物
何にしようかな???



[目次](#)



おいしい夕食、みんなで「いただきます！」



作ったロザリオを神父様が祝別



朝のラジオ体操！！

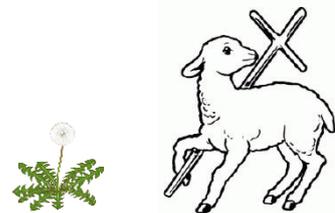


夜のお祈り

おやすみなさい ㊤☆



ゴミサでも大活躍



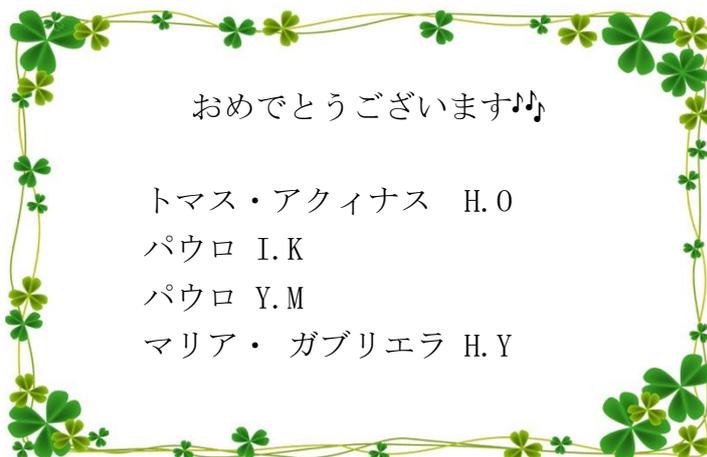
全員集合！ 楽しかったね♪



《 神戸地区東ブロック合同堅信式 》

6 月 11 日（日）三位一体の主日に六甲教会において、大阪大司教区
トマス・アクィナス前田万葉大司教の司式のもと、神戸地区東ブロック 21 名
（神戸中央教会・六甲教会・住吉教会・神戸中央教会英語グループ）の
合同堅信式が行われました。
住吉教会からは 4 名の方が堅信の秘跡を受けられました。

前田万葉大司教の句 「聖三位 喜びたたえ 堅信式」



聖書のことは学校の宗教の授業で習っていましたが、
自分たちの意見を交わし合ったりはしなかったため、
より深く学ぶことができました。
聖書の全ての文章について考えるのは難しいけれど、
教会の授業を通して少しでも多くを学びたいと思いました。
堅信式ではたくさんの方々にお願いしていただき、うれしかったです。

H.O

堅信を受けて

私は、堅信を受けて思ったことがあります。それは、
自分のことにかかってです。このままでもいいのかと、も
う一度考え直しました。
中学二年生になつた私は、これまで人に頼っていま
した。けれど堅信を受けて自信がつかない気がしました。
自分のことは自分で考え、自分のことは自分で決める
という目標を立てました。そのせいで、誰にも負けが
前へ進んで行きたいと思えました。
堅信を受けて、神様のことについて前よりもたくま
しく知れたことが自信になりました。これから神様の
約束を守り自分の未来に進んで行きたいです。

M.A. カリコ
H Y

僕達は、堅信を受ける上で、七つの秘跡
について学びました。その中で、普段話す機会
のない神戸中央教会のシスターに、元日の洗
礼の受け方や、御聖体の意味などを教えて頂
いて、貴重な体験をできました。僕達の堅信
にご協力して下さいました。全ての方向に感謝到
ります。

I K

「堅信式を終えて」

堅信式を終えて僕は、教会のことカトリ
ク、キリスト教のことについて改めて様々
面から学ぶことができた。
三つの秘跡があること、洗礼によって私達
は神様と初めて結びつくということ。僕は洗
礼を受けてからの十一年の間に、神様のお二
とは心にはびいてくるように、僕は、僕
くさりの人に守られ育ち、できたことを感じて
いました。

僕は様々なことを学び、堅信の秘跡を受け
神様へ思いを届けることができました。こ
れから神様を通して神様のおことばを心
に留めていきます。

Y M



《教会学校サマーキャンプ》

7月31日～8月1日に教会学校のサマーキャンプを甲山自然の家で行いました。暑さが心配される中、17名の子供達は元気に二日間を過ごしました。



出発前のお祈り



暑い中がんばって歩きます



お弁当いただきます！



夕食の前のお祈り



て低学年男子のスタンツ



気持ちのよい戸外での朝ミサ。

神様の祝福が豊かに注がれますように。



川遊び！！
冷たくて気持ちよさそう



二日間無事に楽しく過ごせたことを神様に感謝。
見守ってくださった神父様、リーダー、ありがとうございます。

[目次](#)



マテオ Y.S 様は本年 5 月 30 日 90 歳で帰天されました。ゆったりとした笑顔の S 先生がいて下さるだけで私達は大きな安心感を覚えておりました。最期まで自分に出来る奉仕として献金係をして下さった先生のご子息に追悼文をお願いしましたところ次の文をお寄せ下さいました。感謝のうちに掲載します。

(編集部)

《 父との思い出 》

H.S

父との思い出を語る上でまず頭に浮かぶのは、ハイキングである。父は、よく私たち（姉、妹、私）を一王山、保久良神社、ロックガーデンなど六甲山麓のハイキングに連れて行ってくれた。まだ幼い私たちにとって長時間の山歩きはしんどく、つらいものであったが、忍耐力が養われ、「歩く」ことが苦にならなくなったのはこのハイキングのおかげだと、今では父に感謝している。父にもそのような意図はおそらくあったであろうが、当時はまだ医院を開業する前で、我家の家計を考えればハイキングはお金のかからない娯楽であった。その他、王子動物園、阪神パーク、宝塚ファミリーランドなど、たまに連れて行ってもらえる遊園地や映画館、そして不二家などのレストランでの外食は、子供たちにとっては心躍る「我家の特別な行事」であった。今から思えば、父は病院勤めの忙しい中、休日には家でゆっくり休養をとりたかったであろうに、本当に色々な場所に私たちを連れて行ってくれた。



その後、父が内科医院を開業してからは、私たちも小学校の高学年から中学・高校へと進み、父と出歩くことはほとんど無くなったが、50 代の初めに健康が気になり始めたのか、急に父がウォーキングを始めた。「今日は芦屋まで歩いた」「今日は夙川まで歩いた」と自慢げに報告する父に誘われて、私も何度か付き合わされたが、何のことはない、ただひたすら早足で歩くだけである。父に言わせれば、「歩いていると思考が自由に広がって、思わぬ発想やひらめきが生まれてくる。それが楽しいのだ。」ということであった。今から思えば、読書以外に特別な趣味のなかった父にとって、ウォーキングは健康維持も兼ねて手軽に楽しめる趣味であったことは確かだが、ひょっとして、息子と対話を持つための機会として、ウォーキングを利用していたのかもしれない。というのは、ちょうどその頃の私は大学生で、自分の将来について明確な目標が思い描けずに、勉強にも身が入らず悶々としていた時期であり、父もそのことをよく知っていたからだ。しかし、だからといって父の方から、ウォーキングをしながらその話題に触れることはなかったのだが、他愛のない会話を交わしながらただ一緒に長い道のりを歩くことで、父なりのやり方で息子に寄り添おうとしていたのだろうか。あるいは私の方から悩みを切り出すのを待っていたのだろうか。

実は私自身、結婚して子供が生まれ、その子供が成長し、やがて当時の父と同じ 50 代を迎えるころになってようやく当時の父の気持ちが少しずつわかるようになってきた。私が息子に対して言おうとして言えなかったり、言いたいのを我慢して言わなかったりしたことがあったように、当時、父が私に対して何を言えなかったのか、そして何を言わなかったのかが、すべてではないが少しは分かる気がする。そういえば、私が教師になってまだ日が浅いころ、一部の生徒たちとの関わりの中でかなり悩んでいた時に、思い切って父に相談してみると、父は「まず、『受容』から入ること、すなわち無条件にありのままの生徒を受け入れることが大切だ」とアドバイスしてくれた。その時の私は気づけなかったが、父はまるで私が相談に来ることを知っていたかのように、即座にまるで専門家のような的確な答えを提示してくれた。おそらく父は教師として未熟な私が悩んでいることを知っていて、私がいつ相談に来てもしっかりとしたアドバイスができるように準備をして待っていたのではないだろうか。

父は心理学者の河合隼雄を尊敬していて、彼の本を私にも読むように勧めた。「心の処方箋」という著書の中で彼は「カウンセラーの心得」について次のように述べている。

私は人の心などわかるはずはないと思っている。要するに簡単に判断を下さず、人の心というものはどんな働きをするのか、わかるはずがないという態度で人に接しているのである。

(中略)

一番大切なことは、人の心をすぐに判断したり、分析したりするのではなく、それがこれからどうなるのだろう、と未来の可能性の方に注目して会い続けることなのである。

(引用に際して一部言葉を変えています)

父は家ではいつも明るかった。そしてよく大きな声で笑った。テレビを見ながら大声で楽しそうに笑い、母との会話の中で「痛いところ」を突かれたりすると、反論する代わりに大声で笑ってごまかした。本当に可笑しくて笑っているときもあれば、時にはそれほど可笑しいとは思えないような場合でも、無理やり大きな声で笑っているように感じられることもあった。それは、まるで自分の笑いによって家の中を少しでも明るい雰囲気にしようとしているかのようなようだった。

父は今何をしているのだろうか。ちゃんと天国に行けたのだろうか。先に逝った姉や兄たちと久しぶりに会って昔のように楽しく語らっているのだろうか。私のこの文を読んだら、何と言うだろう。ひょっとしたら「弘之、それはちょっと考えすぎやで」と大きな声で笑うかもしれない。いつかふたたび父に会えることを信じたい。

[目次](#)

《キリスト者生活：喜びと賛美！》

ペンケレシ神父

春に行なってきた【新しい命】という研修会で、初めて一つのことに気がつきました。神の恵みを知って聖霊に満たされると賛美は湧き出る、ということです。キリストを信じる者の上に初めて聖霊が降った時、今までユダヤ人を恐れて高間にこもっていた使徒たちと仲間 120 人は街に出て、「神の偉大な業を語っていました」。最近洗礼を受けた一人の男性は、前と違って、顔は、喜びに輝いていました。彼は洗礼によって聖霊を受けました。以前はあまり人と話しませんでした、今では人々と交わるようになりました。

皆さんはご存じだと思いますが、「私たちに与えられた聖霊によって、神の愛が私たちの心に注がれているのです」(ローマ 5 章 5 節)。「神の愛から喜びは湧き上がります」(ガラテヤ 5 章 22 節)。愛し合う男女、親子、友人は、どのように愛を表し、確かめ合うのでしょうか。「愛してくださってありがとう」と言い合うのでしょうか。互いに喜び合い、ほめ合うのです。「あなたは素晴らしい、美しい、賢い」など言います。

この宇宙で私を誰よりも愛するのは神様です。神様は私のお父さんです。生を与え、毎日太陽を昇らせ、雨を降らせ、愛をもって養い、生かしてくださっています。御子イエスを遣わし、過去のすべての悪いこと(罪)を責めないで赦し、聖霊を注いで、愛する新しい心を与え、イエスを死者から復活させて永遠の命の確かな約束を与えられました。神は私を温かく愛し、私が悪くても、無条件に、永久に変わることなく愛してくださいます。

クリスチャンと言え、神に愛されていることを知り、神を愛する者です。それは最高の宝、永遠に続く命です。全世界を手に入れてもその愛がなければすべては無になります。

旧約時代にすでに、神に選ばれた民イスラエルは神を賛美していました。聖書の詩篇 148 を開いてみませんか。「アレルヤ(主に賛美)…日よ、月よ、輝く星よ、主を賛美せよ。地において主を賛美せよ、…山よ、実を結ぶ木よ、…君主よ、若者よ、老人よ」。

中世期から「異邦人のようにくどくどと述べて」(マタイ 6 章 7 節)唱えて繰り返す祈りが多く現れましたが、聖霊はパウロを通して戒めています。「詩編と賛歌と霊的な歌により、感謝して心から神をほめたたえなさい」。実際に、「私たちはどう祈るべきかを知りません」(ローマ 8 章 26 節)人間の狭い世界に止まります。詩編や聖書の多くの箇所、神が望まれる祈りを教えます。神が望まれる祈りですから聞き入れられる祈りです。

神を賛美することはどれほど心を変え、状況を変える力があるかを知りたいならば、「賛美の力」の本をお読みください。(パウロ書店にあるはず)

「神はご自分に従う人々に聖霊をお与えになります」(使徒言行録 5 章 32 節)。聖霊は私たちが新しい被造物に変え(1 コリント 5 章 17 節)神に喜ばれる人間に造り上げられます。

今日から、神のすべての業と恵みを、度々思い巡らして、賛美する者になりませんか。

[目次](#)

「ユスト高山右近のいつくしみに倣う」ための祈り(試案)

2017.7.2

「慈しみの人」となるために (9月、10月)

いつくしみ深い御父よ、あなたは私たち日本における教会のために、ユスト高山右近を福者としてお示しになりました。ユスト高山右近はイエスに倣う具体的な生き方として、武士としての身分にとらわれず貧しい人、虐げられた人の側に立って進んで世話をしました。現代に生きる私たちも右近に倣い、様々な意味で「谷間に置かれた人々」の側に立ち、痛みを共に味わい、必要とされる助けを差し出すことができますように、私たちの目を開き、一步を踏み出す勇気をお与えください。私たちの主、イエス・キリストによって。アーメン

「寄り添いの人」となるために (11月12月)

いつくしみ深い御父よ、あなたは私たち日本における教会のために、ユスト高山右近を福者としてお示しになりました。ユスト高山右近はイエスに倣い、身分にとらわれずに多くの人と親しく交わり、その寄り添う姿で「神の国」を人々に表しました。現代に生きる私たちも右近に倣い、様々な場にある様々な人々に寄り添い、交わり、神の愛を肌で伝えるものとなることができますように、私たちの心を開き、強めてください。私たちの主、イエス・キリストによって。アーメン

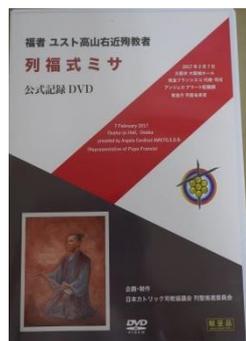
「祈りの人」となるために (7月、8月)

いつくしみ深い御父よ、あなたは私たち日本における教会のために、ユスト高山右近を福者としてお示しになりました。ユスト高山右近は「イミタチオ・クリスティ(キリストに倣いて)」や「イグナチオの霊操」を通してイエスの生涯を黙想し、イエスの生き方に倣う「降りていく人」の道を選びました。現代に生きる私たちも、イエスの生涯を学び、主のみ声を正しく聴くことができますように、私たちを導き強めてください。私たちの主、イエス・キリストによって。アーメン

「宣教の人」となるために

(1月、2月、3月)

いつくしみ深い御父よ、あなたは私たち日本における教会のために、ユスト高山右近を福者としてお示しになりました。ユスト高山右近は「祈りの人」「慈しみの人」「寄り添いの人」として生きるとともに、茶道を始め日本の文化を通じて人々を福音に招き、キリストへと導きました。現代に生きる私たちも、イエスに倣う自らの生き方を示すとともに、現代日本に息づく文化・生活を通して人々に福音を伝えることが出来るよう、聖霊の息吹を送り、悟らせてください。私たちの主、イエス・キリストによって。アーメン



2月7日におこなわれた「ユスト高山右近列福式ミサ」の様子がDVDや本になりました。貸出受付しておりますので、広報メンバーまでお声かけください。

目次

《 編 集 後 記 》

Y.I 様を偲んで

美しき 聖歌（うた）と祈りを 主にささげ
幼き花の テレジアは逝く 2017.7.8

4 年半程前に「レベル 4 と言われたの」とサラッとされたあの一瞬が忘れられません。

それからは、主日のミサでいつもの席にお姿が見られると今日は調子が良いのだと安心し、空席だと抗がん剤がこたえて辛いのかなと皆で心配しました。

付き添って来られるご主人様もご心配そうでしたが、あなたはいつも前向きで「今朝は一人で来たの」と嬉しそうに言われる頃には、お迎えまでの間チームの為に働かれたり、ミサゴでお茶を楽しまれたり。

何よりもお好きだったのは神様が下さった美しいお声での聖歌や朗読を捧げられる時だったでしょうか。背筋をまっすぐ伸ばして、いつでも第一声が出せるように準備されているお姿を横に見て、背もたれにぐたっ！！の私は何度座り直した事でしょう。レジオ・マリエや広報でもご自分に出来ることはいつも一生懸命。

これからは大好きな神様の下で素晴らしい聖歌を歌い、広報冊子を朱で校正して下さいね。沢山のほっこりとした思い出に感謝しつつ。

K.T

教会案内		
ミサ		
主日ミサ	日曜日	9:30
	第1・第3土曜日 スペイン語	19:00
週日ミサ	火・金曜日	9:30
講座		
信仰講座 (Fr. 傘木)	Fr. 傘木担当日曜日	10:50
信仰の分かち合い	第2・第4日曜日	11:00
聖書の集い (Fr. エマニュエル)	金曜日 (9月より)	10:15
Come & See	第4土曜日	15:00
教会学校	第1・第3土曜日	14:00～16:00
	対象:小学1年生～6年生	
評議会	第3日曜日	11:00
野宿者支援炊出し	第1土曜日	9:30
	(住吉教会集合)	



[目次](#)

「すみよし」第202号	
発行日	2017年8月15日
発行責任者	エマニュエル神父 コンサルタ神父
編集・印刷・発行	広報チーム
発行所	神戸市東灘区住吉宮町2-18-23 カトリック住吉教会
TEL	078-851-2756
FAX	078-842-3380
http://www.sumiyoshi.catholic.ne.jp	